

臨床心理学専攻
(博士前期課程)

臨床心理学専攻博士前期課程（令和4年度学則）
【臨床心理学分野】 配当表、カリキュラム・マップ

◆臨床心理学専攻 博士前期課程 ディプロマ・ポリシー

(1) 高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。

(2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識

専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。

(3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術

公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。

(4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力

患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。

(5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見

諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。

(6) 研究遂行能力

臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 7)	単位数	開講時期				学位授与方針との関連					
				1春	1秋	2春	2秋	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
臨	保健医療分野に関する理論と支援の展開	中島 亨	2	○				★				★	
	福祉分野に関する理論と支援の展開	北山 純	2	○				★			★	★	
	教育分野に関する理論と支援の展開	島田 正亮	2			○		★	★	★	★	★	
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	渡辺 由希	2			○						★	★
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	中村 美奈子	2	○				★	★				★
	心理的アセスメントに関する理論と実践	村部 妙美	2	○					★	★	★	★	
	心理支援に関する理論と実践	脇谷 順子	2	○				★	★	★	★	★	★
床	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	大西 真美	2		○			★	★	★	★	★	
	心の健康教育に関する理論と実践	萩原 豪人	2			○		★	★	★	★	★	
	心理実践実習Ⅰ	中村 美奈子	2	○				★	★	★	★	★	
	心理実践実習Ⅱ	島田 正亮	2	○	○			★	★	★	★	★	★
	心理実践実習Ⅲ	脇谷 順子	2			○		★	★	★	★	★	
	心理実践実習Ⅳ	島田 正亮	4			○	○	★	★	★	★	★	★
	臨床心理学特別演習Ⅰ	柳田 多美	2			○		★	★	★	★	★	★
心	臨床心理学特別演習Ⅱ	中島 亨	2				○	★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅠ	中島 亨	2		○			★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅠ	村部 妙美	2		○			★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅠ	脇谷 順子	2		○			★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅠ	新井田 素子	2		○			★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅠ	中村 美奈子	2		○			★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅠ	島田 正亮	2		○			★	★	★	★	★	★
理	ゼミナールⅠ	柳田 多美	2		○			★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅠ	萩原 豪人	2		○			★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅡ	中島 亨	2			○		★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅡ	村部 妙美	2			○		★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅡ	脇谷 順子	2			○		★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅡ	新井田 素子	2			○		★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅡ	中村 美奈子	2			○		★	★	★	★	★	★
学	ゼミナールⅡ	島田 正亮	2			○		★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅡ	柳田 多美	3			○		★	★	★	★	★	★
	ゼミナールⅡ	萩原 豪人	2			○		★	★	★	★	★	★
	特別演習	中島 亨	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	村部 妙美	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	脇谷 順子	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	新井田 素子	2				○	★	★	★	★	★	★
分	特別演習	中村 美奈子	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	島田 正亮	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	柳田 多美	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	萩原 豪人	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	中島 亨	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	村部 妙美	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	脇谷 順子	2				○	★	★	★	★	★	★
野	特別演習	新井田 素子	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	中村 美奈子	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	島田 正亮	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	柳田 多美	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	萩原 豪人	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	中島 亨	2				○	★	★	★	★	★	★
	特別演習	村部 妙美	2				○	★	★	★	★	★	★

科目名	保健医療分野に関する理論と支援の展開	授業コード	21S10011
代表教員	中島 亨	担当教員	
授業概要	保健医療分野に関し、公認心理師国家試験問題を念頭に関連分野の講義および演習を行う。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 保健医療分野に関し、公認心理師国家試験を取り上げ、必要に応じてディスカッションを行い、相談活動、カウンセリング活動に必要な実践的能力を培う。 《個別目標 (SBOs)》 ①心の健康について、日常の社会的トピックスから関心を深め、医療・産業・福祉・教育現場における実践的な保健活動を展開することができる。 ②心の健康のあり方を精神保健および心理学的な観点から医療モデルと成長モデルについて理解する。 ③心の健康問題を「適応」「正常」という観点から理解する。 ④他職種の専門家・関係諸機関との連携を理解する。 ⑤医療面接の実技について研鑽を行う。		
授業計画	1. 医療面接法と行動規範/研究・医療倫理講義[講義・質疑応答・演習] 2. 精神医学Ⅰ[講義・質疑応答・演習] 3. 精神医学Ⅱ[講義・質疑応答・演習] 4. 発達障害・青年期思春期精神医学と学校精神保健Ⅰ[講義・質疑応答・演習] 5. 発達障害・青年期思春期精神医学と学校精神保健Ⅱ[講義・質疑応答・演習] 6. 産業精神医学[講義・質疑応答・演習] 7. 感覚器を含む神経機構と神経疾患[講義・質疑応答] 8. 大脳生理学/記憶機能/睡眠[講義・質疑応答] 9. 認知症と高次脳機能障害[講義・質疑応答・演習] 10. 緩和医療とグリーフケア[講義・質疑応答・演習] 11. 災害などの破局的体験と精神医学[講義・質疑応答・演習] 12. 依存症と精神医学[講義・質疑応答・演習] 13. 生活習慣病などの身体疾患と精神医学[講義・質疑応答・演習] 14. 種々の薬物についての知識[講義・質疑応答] 15. 全体の講義についての知識の確認[講義・試験]		

準備学習	予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。
評価方法	レポート(60%)・記述試験(40%)<記述試験は実習前の全般的(精神)医学的知識についての評価となる>
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	福祉分野に関する理論と支援の展開 福祉分野に関する理論と支援の展開	授業コード	21S10022
代表教員	北山 純	担当教員	
授業概要	本講義では、福祉分野における心理臨床について扱い、公認心理師としての臨床実践に資する知見を得ることを目的とする。福祉領域における心理的問題は、医療や教育のみならず、文化、社会、法律などとの関連も深く、極めて学際的な特徴を持ち、また子どもから高齢者に至るまでその対象也多岐にわたる。本講義では臨床心理学的な視点を軸として、特に心理職として現場に出た際に必須となるトピックについて取り上げてゆく。それぞれのテーマについての、社会的背景、法制度、精神疾患や心理的問題の理解と心理学的支援等に関する広範な知識を前提としつつ、複数の臨床事例を精読しグループディスカッションを行うことを通じて、心理専門職としてのアセスメント、治療的介入、実践に際して生じうる困難などについて詳細に検討していくことに主眼を置く。よって、事例に対して自分なりの理解を深めるための予習と、授業時のディスカッションに対する積極的なコミットメントが求められる。そのようなプロセスを通じて、各自が「福祉とは何か」「心理療法とは何か」といった臨床実践の基軸となる思索を深める機会になればと考えている。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 《一般目標(GIO)》 公認心理師として福祉領域における心理臨床実践を行う際に必要な知見を習得し、事例検討を通じて実践的な思考を培う。 《個別目標(SBOs)》 ①福祉分野の臨床現場において生じる多様な心理的問題・精神疾患、その社会的背景や法制度等に関する知識を得る。 ②福祉分野における心理臨床実践の際に用いられる心理的援助・心理療法について習得する。		

	③臨床事例の検討を通じて、心理専門職としての自らの考えを言語化し、グループで共有・検討することができる。 ④福祉分野での心理臨床実践への理解を深め、実践に資する心理臨床家としての力を養う。
授業計画	1. 福祉心理学とは〔講義・質疑応答〕 授業のオリエンテーション。「心理臨床」からみた「福祉」「福祉心理学」について考える。 2. 発達障害・児童虐待〔講義・質疑応答〕 発達障害に関する病理や心理的特性、ならびに児童虐待に関する社会的背景、子育て支援、社会的養護、虐待が及ぼす心理的特徴について学び、プレイセラピーを中心とした子どもに対する心理的援助や児童相談所による介入について学ぶ。 3. 事例検討(1)〔グループワーク〕 福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。 4. 不登校・ひきこもり〔講義・質疑応答〕 不登校・ひきこもりに関する社会的背景、当人および家族への心理的援助、「内閉」することの心理的意義について学ぶ。 5. 事例検討(2)〔グループワーク〕 福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。 6. 精神障害〔講義・質疑応答〕 精神障害者に対する福祉、生活と人権、医療機関での治療や地域におけるケアについて学ぶ。 7. 事例検討(3)〔グループワーク〕 福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。 8. 被害者支援〔講義・質疑応答〕 PTSD、暴力による被害（DV）、性被害、災害被害とその援助について学ぶ。 9. 自殺〔講義・質疑応答〕 自殺に関する現況、自殺の特徴、自殺への対策について学ぶ。 10. 事例検討(4)〔グループワーク〕 福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。 11. 高齢者の身体・心理的問題、高齢者に対するアセスメントと心理療法〔講義・質疑応答〕 老いの心理、老年期の精神疾患、高齢者に対する心理検査（認知機能障害に対する神経心理学検査など）および心理療法（支持的心理療法、回想法、芸術療法など）について学ぶ。 12. 事例検討(5)〔グループワーク〕 福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。 13. 認知症、高齢者の虐待、介護者への心理的支援〔講義・質疑応答〕 認知症の病理とその心理的な援助、介護保険制度、成年後見制度、高齢者の虐待（家

	族、施設)、介護者支援について学ぶ。 14. 事例検討(6) [グループワーク] 福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。 15. まとめ・質疑応答 [まとめ・質疑応答] 授業全体のまとめと質疑応答を行う。 (フィードバック方法) 複数回のリアクションペーパーを求め、受講者からの質問、意見、感想等に対して講義内でフィードバックを行う。
準備学習	(予習) 1-15. 授業前に複数の事例資料を配布し、その内容に関して授業内でディスカッションを行う。よって、授業前の段階であらかじめ事例資料に目を通しておき、セラピスト、クライアント、およびケース全体に関して自らの考えを整理した上で授業に臨むことが求められる。また、授業で取り扱われるそれぞれのテーマに関連する文献にあたって基礎的な事項を学習し、関心や疑問点について明らかにしておくこと。 (復習) 1-15. 各回の講義内容を振り返り、習得した知識を確認しておくこと。また、ディスカッションや事例検討でなされた議論について改めて考えを深め、視野を広げるよう努めること。 ※全ての回、予習は1時間、復習は1時間を必要とする。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	レポート (授業時のリアクションペーパー : 50%、学期末レポート : 50%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	教育分野に関する理論と支援の展開	授業コード	21S10031
代表教員	島田 正亮	担当教員	
授業概要	本講義では、教育分野における心理的支援を実践するにあたり求められる知識や技能を習得することを目的とする。講義に加え、事例検討や教育分野における様々なトピックスについてのグループワーク、ディスカッションを取り入れる。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 《一般目標(GIO)》 公認心理師として教育分野における心理的支援を実践するにあたり求められる知識や技能を習得する。 《個別目標(SBOs)》 ①教育分野における公認心理師に求められる役割や実践について理解する。(知識) ②教育分野における心理的支援の理論や実際について理解し、将来の臨床実践につなげる。(知識・技能) ③ディスカッションや事例検討を通じ、教育分野での心理臨床実践への理解を深める。(知識・技能)		
授業計画	1. 教育分野における心理支援とは〔講義・質疑応答〕 授業のオリエンテーションを行う。教育分野に対する受講生の想いやイメージを整理する。 2. 教育分野における公認心理師の役割〔講義・質疑応答〕 教育分野において公認心理師に求められる役割、制度、法規について学ぶ。 3. 不登校〔講義・グループワーク〕 不登校の事例をもとに、心理的支援・援助の実際と問題について学びを深める。 4. 学級崩壊〔講義・グループワーク〕 学級崩壊の事例をもとに、心理的支援・援助の実際と問題について学びを深める。 5. 体罰〔講義・グループワーク〕		

	体罰の事例をもとに、心理的支援・援助の実際と問題について学びを深める。 6. いじめ [講義・グループワーク] いじめの事例をもとに、心理的支援・援助の実際と問題について学びを深める。 7. 教師のメンタルヘルス [講義・グループワーク] 教師の相談事例をもとに、心理的支援・援助の実際と問題について学びを深める。 8. 保護者対応 [講義・グループワーク] 保護者対応の事例をもとに、心理的支援・援助の実際と問題について学びを深める。 9. 子どもの自殺 [講義・グループワーク] 子どもの自殺に関する事例をもとに、心理的支援・援助の実際と問題について学びを深める。 10. 当事者の声から学ぶ① [講義・グループワーク] 発達障害を抱えた当事者の実生活や生じる困難等について映像資料から学び、実践的な理解を深める。 11. 当事者の声から学ぶ② [講義・グループワーク] 児童虐待を受けた当事者の実生活や生じる困難等について映像資料から学び、実践的な理解を深める。 12. 学校危機 [講義・グループワーク] 学校危機の事例をもとに、心理的支援・援助の実際と問題について学びを深める。 13. WISC 事例① [講義・グループワーク] 落ち着きのなさや忘れ物が目立つ小学校高学年の WISC 事例をもとに、結果の解釈や心理的支援の方法について学びを深める。 14. WISC 事例② [講義・グループワーク] 話したいことを相手にうまく伝えられない小学校低学年の WISC 事例をもとに、結果の解釈や心理的支援の方法について学びを深める。 15. WISC 事例③ [講義・グループワーク] 学習につまずきがあり、自信や意欲がもてない小学校高学年の WISC 事例をもとに、結果の解釈や心理的支援の方法について学びを深める。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し、疑問点や関心事について明らかにしておくこと。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、習得した知識を確認しておくこと。興味関心事については更に学習を重ね、知見を深めるよう努めること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分を必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	小レポート (30%)、最終レポート (70%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	司法・犯罪分野に関する理論 と支援の展開 司法・犯罪分野 に関する理論と支援の展開	授業コード	21S10041
代表教員	渡辺 由希	担当教員	
授業概要	本科目では、公認心理師に必要な司法・犯罪領域について、大きく 3 領域に分け実践的に学ぶ。「司法と医療」では、主に加害者の個人要因に焦点をあて、パーソナリティ要因や精神鑑定について学ぶ。「少年非行」では少年事件に焦点をあて、発達障害との関連や非行少年のアセスメントについて学ぶ。「司法と福祉」では加害者支援に焦点をあて、彼らを取り巻く状況や施設内・社会内処遇について学ぶ。以上 3 領域については、履修者のプレゼン発表の形式をとる。このほか司法面接、被害者支援を取り上げる。これについては教員による講義形式をとる。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標(GIO)》 ①犯罪、非行臨床について、現在の状況とその問題点を多角的な視点から考察し説明することができる。 ②犯罪、非行臨床について、当事者の処遇を多角的な視点から考察し説明することができる。		
授業計画	1. オリエンテーション：我が国の司法システム[講義・質疑応答] 2. 司法と医療①：パーソナリティ要因（反抗挑戦性障害，素行障害，反社会性パーソナリティ障害）[プレゼン] 3. 司法と医療②：精神鑑定[プレゼン] 4. 司法と医療③：心神喪失者等医療観察法[プレゼン] 5. 小テスト[講義・小テスト実施] 6. 少年非行①：非行・犯罪のアセスメント[プレゼン] 7. 少年非行②：発達障害を有する少年の非行[プレゼン] 8. 少年非行③：少年の施設内処遇、社会内処遇[プレゼン] 9. 司法面接[講義・質疑応答] 10. 小テスト[講義・小テスト実施] 11. 司法と福祉①：罪を犯した人々の現状[プレゼン] 12. 司法と福祉②：成人の施設内処遇[プレゼン] 13. 司法と福祉③：成人の社会内処遇[プレゼン] 14. 犯罪被害者支援[講義・質疑応答] 15. まとめ[講義・質疑応答]		

準備学習

本科目は 3 日間の集中講義となる。履修者によるプレゼン発表を行うため、発表担当者は事前の準備をすること。

なお、使用する文献および発表分担については、開講前（おおむね 7 月頃）にユニパの掲示配信より連絡する予定である。

1. 予習：我が国における司法システムをまとめておく。

復習：司法と医療、司法と福祉について調べ、ノートへまとめる。

（予習 30 分・復習 30 分）

2. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。

復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。

（予習 120 分・復習 30 分）

3. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。

復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。

（予習 120 分・復習 30 分）

4. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。

復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。

（予習 120 分・復習 30 分）

5. 予習：小テストに向け、司法と医療領域の復習をする。

復習：小テストで出題された内容をもう一度解き、間違えた点についての理解を深める。

（予習 120 分・復習 30 分）

6. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。

復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。

（予習 120 分・復習 30 分）

7. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。

復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。

（予習 120 分・復習 30 分）

8. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。

復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。

（予習 120 分・復習 30 分）

9. 予習：司法面接とは何か、調べてまとめておく。

復習：各種面接技法についてノートにまとめておく。

（予習 30 分・復習 30 分）

10. 予習：小テストに向け、少年非行領域の復習をする。

復習：小テストで出題された内容をもう一度解き、間違えた点についての理解を深める。

（予習 120 分・復習 30 分）

	11. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。 復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。 (予習 120 分・復習 30 分) 12. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。 復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。 (予習 120 分・復習 30 分) 13. 予習：発表担当者は発表用のスライドを作成する。 復習：発表された内容について、理解したこと・疑問に思ったことをノートにまとめる。 (予習 120 分・復習 30 分) 14. 予習：犯罪被害者支援について、調べてまとめておく。 復習：今後犯罪被害者支援を充実させるために必要なことを考え、ノートにまとめる。 (予習 30 分・復習 30 分) 15. 予習：授業内試験に向けての十分な準備をする。 復習：今後司法・犯罪領域の学習を深めるために必要なことを考え、学習計画を立てる。 (予習 120 分・復習 30 分)
評価方法	成績評価方法：レポート試験（70%）、授業内のプレゼン発表（30%）
備考	この科目は2単位です。 (問い合わせ)質問等がある場合は、yuki-watanabe@ksot.kyorin-u.ac.jpまで連絡すること。

科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	授業コード	21S10052
代表教員	中村 美奈子	担当教員	
授業概要	心理職が産業・労働分野での臨床実践を行う上で必要な基礎知識と実践力を身につける。講義だけでなく、プレゼンテーションを取り入れた授業を行う。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO) 》 ①産業・労働分野で活動するための基礎的知識を学ぶ。 ②職業人への心理学的支援の概要を学ぶ。 ③働くことの意味を考え、自分自身のキャリア形成を検討する。 《個別目標 (SBOs) 》 ①産業・労働分野における重要トピックスを説明できる (知識)。 ②働く人への具体的な支援を検討できる (知識・技能)。 ③ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成を実践できる (知識・技能)。		
授業計画	1. ガイダンス【講義・ディスカッション】 授業の進め方を説明する。また、産業精神保健と産業心理臨床の概要を学ぶ。 2. ロジカルシンキング・プレゼンテーション【講義・ディスカッション】 社会人に必要なロジカルシンキングやプレゼンテーションの方法を学ぶ。 3. 心理教育①【講義・ディスカッション】 労働者への心理教育・研修プログラムの実施方法を学ぶ。 4. 復職支援①【講義・ワーク・ディスカッション】 産業心理臨床で必須となるリワークの理論と支援方法を、演習を交えて学ぶ。 5. 復職支援②【講義・ワーク・ディスカッション】 産業心理臨床で必須となるリワークの理論と支援方法を、演習を交えて学ぶ。 6. キャリア・カウンセリング【講義・ワーク・ディスカッション】 キャリア発達理論を概観し、求職者やキャリア発達を望む人への支援を学ぶ 7. 心理教育②【プレゼンテーション・ディスカッション】 キャリアに関する心理教育プログラム (社会人基礎力やキャリア選択など) を検討する。 8. 労働に関する法律【プレゼンテーション・ディスカッション】 労働安全や労働契約など、働くことに関する法律をまとめ、発表する。 9. 心理的安全性【プレゼンテーション・ディスカッション】		

	労働者の精神衛生やパフォーマンスに影響する対人関係、モチベーション、リーダーシップなどについてまとめ、発表する。 10. 障害者雇用【講義・ディスカッション】 障害者雇用の概要を学び、働く人への産業心理臨床の実際を学ぶ。 11. 心理教育③【プレゼンテーション・ディスカッション】 キャリアに関する心理教育プログラム（社会人基礎力やキャリア選択など）を検討する。 12. 健康経営【プレゼンテーション・ディスカッション】 企業経営の立場から考える産業保健の課題や方法をまとめ、発表する。 13. ストレスチェック【プレゼンテーション・ディスカッション】 ストレスチェックの考え方や実施方法などをまとめ、発表する。 14. キャリア発達支援①【プレゼンテーション・ディスカッション】 キャリアに関する心理教育プログラムを実施する。 15. キャリア発達支援②【プレゼンテーション・ディスカッション】 キャリアに関する心理教育プログラムを実施する。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは授業内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しておくこと。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、関連トピックなどについて補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)
備考	この科目は 2 単位です。 必要に応じてオンライン授業も併用する。 【参考図書】 「心理職のための産業保健入門」小山文彦 ISBN:978-4772418614 金剛出版 (2021) 「要説 産業精神保健 改訂第 2 版」廣尚典 ISBN:978-4787824271 診断と治療社 (2020) 「キャリア・カウンセリング・エッセンシャルズ 400」日本キャリア・カウンセリング学会監修 ISBN : 978-4772418928 金剛出版 (2022) 「看護管理者のためのメンタルヘルス不調者「復職サポート」ブック」中村美奈子 IBN: 978-4839217464 メヂカルフレンド社 (2024) 「復職のためのセルフ・トレーニング・ワークブック」中村美奈子 ISBN:978-4772419215 金剛出版 (2022) 「復職支援ハンドブッケー休職を成長につなげよう」中村美奈子 ISBN:978-4772415927 金剛出版 (2017)

科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践	授業コード	21S10061
代表教員	村部 妙美	担当教員	平子 雪乃
授業概要	心理アセスメントの査定方法について理解し修得する。特に知能検査（WAIS）, 投映法（ロールシャッハテスト）他を中心に心理検査法の研究の歴史を概観し、施行法、検査結果の整理の仕方、解釈の方法、所見の書き方、フィードバックの仕方を概説し、実施方法の習得及び解釈法の基礎を学ぶ。更にケースフォーミュレーションを活用してテストバッテリーによる心理的支援への応用の仕方を習得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 《一般目標 (GIO) 》 ・公認心理師に求められる、高い倫理性と心理査定における態度、知識、技能、援助に役立つスキルを身につける。 ・最新の査定法と技法を学ぶための生涯学習への意欲を醸成し、常に新しい情報を入手するための基礎を修得する。 《個別目標 (SBOs) 》 ① 心理職に求められる技術と知識を習得し、アセスメントの実施、解釈、支援に結びつけるスキルを身につける。(知識・技能) ② 臨床現場で活躍できるふさわしい態度と、十分な倫理的配慮を行なうことができる姿勢を身につける。(態度) ③ 臨床心理学的支援を要する者やその家族、及びその関係者に心理的アセスメントの結果等を適切に説明をし、関係を構築する。更に支援を必要とする人の不利益にならないよう関係を調整し、支援をする視点を身につける。(知識、技能、態度)		

授業計画

1. ガイダンス 〔講義・質疑応答〕(村部・平子)
 投映法(ロールシャッハ・テスト)の施行法
 本講義の内容についてガイダンスを行い、今後修得すべき事項を明確化する。
 更にロールシャッハテストの施行法について説明する。
2. 知能検査の施行法 〔講義・演習・質疑応答〕(平子)
 知能検査のうち WAIS の施行法を体験的に学習する。
3. 認知機能検査について 〔講義・質疑応答〕(平子)
 近年用いられている認知機能検査について体験的に学習する。
4. 知能検査についての実技演習〔演習〕(平子)
 WAIS の施行法について実技演習を行う。
5. 投映法の歴史的背景〔講義・質疑応答〕(村部)
 ロールシャッハテストを中心に投映法の研究等の歴史的背景とその発展を理解する。
6. 投映法の施行法〔グループワーク、演習、ロールプレイング〕(村部)
 投映法のうちロールシャッハテストの施行法の留意点等を体験的に学習する。
- 7-8. 投映法の分類(反応領域、反応決定因、反応内容)と分類結果の整理〔講義・グループワーク・ディスカッション〕(村部)
 投映法の反応の分類の方法を説明すると共に、実践的体験を行う。
- 9-10. 投映法の意味づけ(反応領域、反応決定因、反応内容)と継起分析〔講義・グループワーク・ディスカッション〕(村部)
 投映法の反応の解釈の方法を説明すると共に、実践的体験を行う。
11. ケースフォーミュレーションとテストバッテリー(神経症)〔講義・グループワーク〕(村部)
 神経症事例を用いて、投映法の解釈の仕方を学ぶと共にテストバッテリーの解釈を体験的に学ぶ。更に支援を要する人、その家族や関係者への活用の仕方を学ぶ。
12. ケースフォーミュレーションとテストバッテリー(統合失調症)〔講義・グループワーク〕(村部)
 統合失調症事例を用いて、投映法の解釈の仕方を学ぶと共に、テストバッテリーの解釈を体験的に学ぶ。更に支援を要する人、その家族や関係者への活用の仕方を学ぶ。
13. ケースフォーミュレーションとテストバッテリー(境界性パーソナリティ障害)〔講義・グループワーク〕(村部)
 境界性パーソナリティ障害の事例を用いて、投映法の解釈の仕方を学ぶと共にテストバッテリーの解釈を体験的に学ぶ。更に支援を要する人と、その家族や関係者への活用の仕方を学ぶ。
14. テストバッテリーの組み方、総合的解釈、フィードバックの方法〔講義・グループワーク〕(村部)
 心理検査全般に対する、テストバッテリーの組み方を学ぶと共にその総合的解釈と、倫理的配慮、及びフィードバックの留意点について体験的に学ぶ。
15. まとめ〔講義・質疑応答、最終レポートの提出〕(村部)
 更に各回において、短時間の各種心理査定のまとめ、レポートを行う。

準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	成績評価方法：各時間における提出物 及び、最終レポート(50%) 再試験実施：無
備考	この科目は 2 単位です。 改定・新心理診断法 片口安史 金子書房 1987 を用いて講義を行う。常時必携のこと。

科目名	心理支援に関する理論と実践	授業コード	21S10071
代表教員	脇谷 順子	担当教員	
授業概要	1. 心理学的支援の発想、方法論、実践される領域、新たな支援法について理解を深める。 2. 代表的な心理療法の理論と特徴、心理学的支援が行われている主な領域、現代を生きる人々のニーズに添う支援法の発展の知識を深める。 3. 実践に生かせるように、社会的な事象も視野に入れながら、心理学的支援について考察する。		
学位授与方針の関連 学習目標	(1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。 またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ① 臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ② 自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③ 先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④ 課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 授業の進め方を説明する。心理学的支援の歴史、および考え方への理解を深める。 2-15. 医療、福祉、教育、司法、産業の五領域、および、テーマごとに心理学的支援についての理論、実践についての理解を深める [講義・プレゼンテーション・個人ワーク・グループワーク・質疑応答] (フィードバック方法)毎回の授業の中で質疑応答の時間を設ける。 テキスト:「心理学的支援法」 大山泰宏編 ISBN:978-4-86616-065-8 遠見書房
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、テキストを読み、各章のテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関しての課題を行い、必要に応じて資料を作成すること。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点についてはテキストなどに基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	プレゼンテーション (30%) 授業時のディスカッションへの参加度 (20%) レポート課題 (50%)
備考	この科目は 2 単位です。 「心理学的支援法」大山泰宏編 ISBN:978-4-86616-065-8 遠見書房を基本テキストとして使用します。なるべく早めに準備してください。

科目名	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	授業コード	21S10082
代表教員	大西 真美	担当教員	
授業概要	臨床心理学の知識を踏まえ、生物・心理・社会モデルを活用して、家族、職場、地域社会の中で人々と共生するための視点を理解し、活用することが必要となる。本講義では、それらの集団の中で関係性を基軸とした対象のとらえ方を学ぶ。その際有効となるシステムズアプローチの理論、手法、実践方法を体験的に習得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 《一般目標 (GIO) 》 公認心理師として支援を要する者や家族や地域社会の中で、関係性に着目したシステムズ・アプローチについてその諸理論と支援への応用の仕方を理解する。連携・協働を行う際の視点を習得する。 《個別目標 (SBOs) 》 ① 家族関係の関係性に焦点をあてたアプローチを理解し、実践への基礎を学ぶ。(知識・技能) ② 社会・集団・家族を支援する際、客観的にアセスメントをし、支援をするための視点や理論を理解し、実際の支援にどのように繋げていくかを習得する。(知識・技能)		

授業計画	1. 家族療法とは？[講義・質疑応答] 家族、集団、地域社会に対する心理的支援をする際、関係性に着目したシステムズアプローチは有効な理論であり、実践方法である。その活用の仕方とシステムとして対象をとらえる様々な視点について概観する。なお講義の中でミニレポート及びレポートを課すが、詳しくは第1回目の授業ガイダンスで説明します。 2. 家族療法の歴史と諸派 家族療法の歴史と諸派を概観する 3. 家族療法の各論1[講義・質疑応答] 構造派家族療法アプローチの理論 4. 家族療法の各論2[講義・質疑応答・演習] 多世代間家族療法アプローチの理論 5. 家族療法の各論3[講義・質疑応答・演習] コミュニケーション学派の家族療法アプローチの理論 6. 家族療法の各論4[講義・質疑応答・演習] 戦略派の家族療法アプローチの理論、技法と実践 7. 家族療法の各論5[講義・質疑応答・演習] ソリューション・フォーカス・アプローチの理論 8. 家族療法の各論6[講義・質疑応答・演習] ナラティブ・アプローチの理論 9. 家族療法の各論7[講義・質疑応答] カップル・セラピーの理論 10. 家族が抱える問題[講義・質疑応答] 離婚する家族への支援 11. 家族が抱える問題[講義・質疑応答] 再婚する家族への支援 12. 自分の家族を理解する。[講義・ワーク・質疑応答] 家族アセスメントの理論と手法（1） 13. 家族をアセスメントする[講義・ワーク・質疑応答] 家族アセスメントの理論と手法（2） 14. 統合的アプローチ[講義・質疑応答] 個人支援のアプローチと家族支援のアプローチの検討 15. 家族、集団、コミュニティへのシステムズアプローチ[講義・質疑応答] 実践への応用と連携の視点について（実践的手法） （フィードバック方法）課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。
準備学習	（予習） 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 （復習） 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆週当たり4時間以上必要である。

	☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	ミニレポート(30%) 最終レポート(50%) 最終発表 (20%)
備考	この科目は2単位です。 初回までにこちらのテキストを購入してください。 『はじめての家族療法:クライアントとその関係者を支援するすべての人へ 単行本(ソフトカバー) 』 浅井 伸彦(著,編集),松本 健輔(著),坂本 真佐哉(監修) 北大路書房 参考図書は講義内で適宜紹介をする。

科目名	心の健康教育に関する理論と実践	授業コード	21S10091
代表教員	萩原 豪人	担当教員	
授業概要	「心の健康教育」は、公認心理師の 4 つの業務の 1 つとして位置づけられている。公認心理師は、心の健康を保持増進に寄与することを目的とし、予防が重視されているのが特徴の 1 つである。近年様々な領域において、健康心理学の視点を取り入れながら、予防や心理教育を行っていくことが、心理臨床家に益々求められる時代になってきている。 本科目では、「心の健康教育」「予防」「コミュニティ心理学」等をキーワードとして、その理論の理解、知識の獲得ができるよう講義を行う。また、「保健医療」「福祉」「教育」「司法・犯罪」「産業・労働」の分野で、「心の健康教育」がどのように実践されているかについて、具体的な例を挙げながら解説する。最後に、心理臨床家として各現場でどのように「心の健康教育」を行うことができるか、実施計画を作成し、発表する。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 《一般目標(GIO)》 心の健康に関する教育の内容や方法に関心をもち、心理臨床の各領域における実践に向けて、実施計画を立案できる。 《個別目標(SBOs)》 ① 心の健康教育について、「予防」や「心理教育」の意義や理論について説明できる(知識)。 ② 心の健康教育において、重要な概念である「健康心理学」や「ストレス・マネジメント」について説明ができる(知識)。 ③ 心の健康教育において、重要な概念である「コミュニティ心理学」や「コミュニティ・アプローチ」について説明ができる(知識)。 ④ 各領域における心の健康教育の実践の内容や方法を理解し、身につける(知識・技能)。		

	⑤ 心理臨床家として、あるコミュニティや心理・社会的問題を想定し、心の健康教育の実施計画を立てることができる（技能・態度）。
授業計画	1. オリエンテーション：心の健康教育とは？〔講義・質疑応答〕 本科目のオリエンテーションを行う。心の健康教育について概略を説明する。 2. 健康と障害〔講義・質疑応答〕 健康や障害について、その定義などについて説明する。 3. 健康心理学とストレス・マネジメント〔講義・質疑応答〕 健康心理学やストレス・マネジメントに関する理論と実践について説明する。 4. コミュニティ心理学とコミュニティ・アプローチ①〔講義・質疑応答〕 「コミュニティ心理学」や「コミュニティ・アプローチ」について説明する。 5. コミュニティ心理学とコミュニティ・アプローチ②〔講義・質疑応答〕 「コミュニティ心理学」や「コミュニティ・アプローチ」について説明する。 6. 保健医療分野における心の健康教育〔講義・質疑応答〕 保健医療分野における心の健康教育の理論と実践について説明する。 7. 福祉分野における心の健康教育〔講義・質疑応答〕 福祉医療分野における心の健康教育の理論と実践について説明する。 8. 教育分野における心の健康教育〔講義・質疑応答〕 教育分野における心の健康教育の理論と実践について説明する。 9. 司法・犯罪分野における心の健康教育〔講義・質疑応答〕 司法・犯罪分野における心の健康教育の理論と実践について説明する。 10. 産業・労働分野における心の健康教育〔講義・質疑応答〕 産業・労働分野における心の健康教育の理論と実践について説明する。 11. グループワーク：「心の健康教育」実施計画①〔プレゼン〕〔グループワーク〕 各領域別にグループに分かれて、「心の健康教育」の実施計画を立てる。 12. グループワーク：「心の健康教育」実施計画②〔プレゼン〕〔グループワーク〕 各領域別にグループに分かれて、「心の健康教育」の実施計画を立てる。 13. グループワーク：「心の健康教育」実施計画の発表〔プレゼン〕〔グループワーク〕 各グループで計画した「心の健康教育」について発表する。 14. グループワーク：「心の健康教育」実施計画の発表〔プレゼン〕〔グループワーク〕 各グループで計画した「心の健康教育」について発表する。 15. 授業の振り返りとまとめ〔講義・質疑応答〕 1～15回の講義及びグループ発表を振り返り、本科目のまとめを行う。 (フィードバック方法) 授業内の質問やミニレポートのフィードバックは次回の講義で実施する。

準備学習	(予習) 1-10. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料に目を通し、基礎的な事項を確認しておくこと。 11-15. 自身の心の健康教育実施計画について、関連する文献や資料に目を通しながら、多角的に検討しておくこと。 (復習) 1-10. 講義内容を振り返り、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 11-15. 自身や他の学生の心の健康教育実施計画について振り返り、考察すること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	レポート (20%)、プレゼンテーション (40%)、課題 (40%)
備考	この科目は 2 単位です。 <参考書> 「心の健康教育 (コミュニティ心理学シリーズ 第 1 巻)」 久田満・飯田敏晴 (編) ISBN : 978-4760892778 金子書房 2021 「公認心理師 実践ガイダンス 4. 心の健康教育 (公認心理師実践ガイダンス)」 野島一彦・岡村達也 (監修) 松本剛・宮崎圭子 (編著) ISBN : 978-4-909862-02-0 木立の文庫 2019 「よくわかるコミュニティ心理学 [第 3 版]」 植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田 満 (編) ISBN : 978-4623080915 ミ

科目名	心理実践実習 I	授業コード	21S10103
代表教員	中村 美奈子	担当教員	中島 亨、新井田素子、村部 妙美、柳田 多美、脇谷 順子、島田 正亮、萩原豪人、石川 智、大西 真美、櫻井 未央、平子 雪乃、古川 綾子、山下 竜一、渡邊 郁子
授業概要	本科目は公認心理師養成科目である。 心理臨床家として活動するために必要な対人スキル、態度やマナー、さまざまな場面や形式での情報の取り扱い方、自己管理、臨床実践に必要な対人援助スキルを、実践的に身につける。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO) 》 - 心理職に求められる態度、知識、対人援助スキルを身につける。 - 心理職として継続すべき生涯学習への意欲を醸成する。 《個別目標 (SB0s) 》 ①心理職に求められる役割やスキルを検討し、身につける。(知識・技能) ②各臨床現場の特徴に相応しい態度を身につける。(態度) ③臨床心理学支援を要する者やその家族、職場の仲間や上司となるべき立場の方々などとの関係性やその築き方を検討する。(知識・技能、態度)		

授業計画	本科目には、公認心理師養成にかかる実習指導教員の資格をもつ担当教員がすべての回に参加する。また、授業内容に応じて、臨床心理学やその他の対人援助を専門とする教員も参加する。 1. ガイダンス【講義】 学内実習の目的、進め方、スケジュールなど、基本的なルールを確認する。 2. 対人援助の基本【講義】 対人援助の基礎となる支援者の心構えや他者理解の基本について検討する。 3. 記録の書き方【講義・ワーク】 実習先で目にするカルテなどの記録を読み取るために SOAP 形式の記録について学ぶ。 4. 傾聴訓練【講義・ワーク】 半構造化面接を体験的に学ぶ。 5－10. 心理検査【講義・ワーク】 心理臨床で多く使用される心理検査を体験的に学ぶ。 11. 特定課題の中間・研究報告会【発表】 修了予定者による特定課題の研究報告会を行う。 12－14. 傾聴訓練【講義・ワーク】 インテイクやカウンセリング場面での傾聴を体験的に学ぶ。 15. 心理実践実習Ⅱガイダンス【講義・ワーク】 外部実習先の概要とそこで求められる心理職としての知識・技能・態度を学び、外部実習の準備をする。 16. 特定課題の研究報告会【発表】 修了予定者による特定課題の研究報告会を行う。 17－30. 実習報告会/事例検討【講義・ワーク】 外部実習に関する報告会と事例検討を行う。 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しておくこと。 (復習) 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	・量的評価(提出物、活動時間など) 50%、質的評価(ロールプレイング・グループディスカッション・報告書等の内容など) 50%。 ・1 から 15 回はすべて、心理実践実習Ⅱ・Ⅳで外部実習を行うための実習前指導である。外部実習に必要な態度、係各所からの事情聴取や調査を行い、実習指導教員などによる実習継続可否の審議を行う。実習継続不可と判断された学生は、それ以降の実習は実施できないものとする。
備考	この科目は 2 単位です。 ・単位取得には 90 時間の参加が必要である。原則として毎回参加すること。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・欠席の場合は、理由書と理由を証明するものを提出すること。・1 から 15 回はすべて、心理実践実習Ⅱ・Ⅳで外部実習を行うための実習前指導である。外部実習で必要な知識、技能、態度を十分に身につけるように取り組むこと。・外部実習参加に際して、実習態度（ルール不遵守，整容の乱れ，意欲低下など）に問題があるとされた場合は、学生や関係各所からの事情聴取や調査を行い、実習指導教員などによる実習継続可否の審議を行う。実習継続不可と判断された学生は、それ以降の実習は実施できないものとする。 |
|--|--|

科目名	心理実践実習Ⅱ	授業コード	21S10113
代表教員	島田 正亮	担当教員	中島 亨、村部 妙美、柳田 多美、中村 美奈子、萩原 豪人、石川 智、大西 真美、櫻井 未央、平子 雪乃、古川 綾子、渡邊 郁子、山下 竜一、竹田 里江、脇谷 順子
授業概要	大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解を基盤とし、心理に関する支援を要する者等に対する支援に係る実習を行う。心理に関する支援の実践を通して、個別目標にあげた①から⑤について身につける。また実習指導者又は実習担当教員による指導を受けることにより、心理に関する支援の知識と技能の更なる修得を目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 ・心理職に期待される役割を理解し実践力を身につける ・心理職に期待される専門的技術を身につける ・心理職に期待される連携を理解し実践力を身につける ・社会人としての常識、マナーを身につける 《個別目標 (SB0s)》 ①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーションや心理学的支援、多職種連携の方法について理解し、身につける。(知識・技能) ②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズを把握し支援計画を作成できる (知		

	識・技能) ③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチを理解し、身につける。(知識・技能) ④多職種連携及び地域連携について理解し、身につける。(知識・技能) ⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できる。(知識)
授業計画	1-15. [実習・質疑応答] 公認心理師の活動分野のひとつである医療分野(医療機関)での実習を行う。各現場での公認心理師の役割をふまえて、そこで求められる対人コミュニケーションや心理学的支援、多職種連携の方法を実践的に学ぶ。また、心理臨床実践にかかる記録やその管理方法を実践する。これらから、公認心理師として活躍できるスキルを身につける。また司法・犯罪分野の施設における見学実習も実施する。なお、本実習は90時間以上の時間数を必要とする。 (フィードバックの方法) 毎回の実習記録に疑問点や自身の課題を記載させ、実習担当教員がフィードバックを行う。ケースカンファレンス時には実習中の体験や課題を取り上げ、振り返りができる機会を設ける。巡回指導では学生からヒアリングを行い、課題を早期に発見して指導する。 全ての回を全教員が担当する。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、実習で必要とされる知識に関連する基礎的な事項を学習しておくこと。また各回の実習目標について整理し、まとめておくこと。 (復習) 1-15. 実習記録をまとめ、疑問点や課題、自身の不足している点について、次回実習日までに補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	実習指導者による評価(50%)、実習担当教員による評価(50%)
備考	この科目は2単位です。 ・単位取得には90時間の参加が必要である。原則として、毎回参加すること。 ・欠席の場合は、理由書と理由を証明するものを提出すること。 ・本実習に参加するためには、実習前試験に合格することが必須である。実習前試験に合格できなかった場合は、外部実習には参加できない。なお、再試験は行わない。 ・外部実習参加に際して、実習態度(ルール不遵守、整容の乱れ、意欲低下など)に問題があるとされた場合は、学生や関係各所からの事情聴取や調査を行い、実習指導教員などによる実習継続可否の審議を行う。実習継続不可と判断された学生は、それ以降の実習は実施できないものとする。

科目名	心理実践実習Ⅲ	授業コード	21S10123
代表教員	脇谷 順子	担当教員	中島 亨、新井田 素子、村部妙美、柳田 多美、島田 正亮、萩原 豪人、中村美奈子、石川 智、大西 真美、櫻井 未央、平子 雪乃、古川 綾子、渡邊 郁子、山下 竜一
授業概要	本科目は公認心理師養成科目である。心理臨床家として活動するために必要な対人スキル、態度やマナー、さまざまな場面や形式での情報の取り扱い方、自己管理、臨床実践で必要な対人援助スキルを、実践的に身につける。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 ・心理職に求められる態度、知識、対人援助スキルを身につける。 ・心理職として継続すべき生涯学習への意欲を醸成する。 《個別目標 (SB0s)》 ①心理職に求められる役割やスキルを検討し、身につける。(知識・技能) ②各臨床現場の特徴に相応しい態度を身につける。(態度) ③臨床心理学支援を要する者やその家族、職場の仲間や上司となるべき立場の方々などとの関係性やその築き方を検討する。(知識・技能、態度)		

授業計画

1. ガイダンス【講義】

学内実習の目的、進め方、スケジュールなど、基本的なルールを確認する。

2. 心理臨床の基本【講義】

対人援助の知識やスキルの学び方や心理臨床家としての心構えを深める。

3. 心理検査①【講義・ワーク】

心理臨床で多く使用される心理検査を体験的に学ぶ。

4. 心理検査②【講義・ワーク】

心理臨床で多く使用される心理検査を体験的に学ぶ。

5. 心理検査③【講義・ワーク】

心理臨床で多く使用される心理検査を体験的に学ぶ。

6. ケース記録／見立て①SOAP【講義・ワーク】

心理職として相談やカウンセリングを行うために必要な視点を整理し、SOAP 形式で事例をまとめる。

7. ケース記録／見立て②BPS【講義・ワーク】

心理職として相談やカウンセリングを行うために必要な視点を整理し、生物・心理・社会の視点で事例をまとめる。

8. インテイク【講義・ワーク】

心理職としてインテイクやカウンセリングを行う方法を、ロールプレイを通して学ぶ。

9. カウンセリング①（情報収集）【講義・ワーク】

感情的共感と認知的共感を区別しながら情報収集することを、ロールプレイを通して学ぶ。

10. カウンセリング②（傾聴する）【講義・ワーク】

インテイクやカウンセリングでの傾聴を、ロールプレイを通して学ぶ。

11. カウンセリング③（応答する）【講義・ワーク】

心理職としての共感のあり方やそれを示す往々の仕方を、ロールプレイを通して学ぶ。

12. カウンセリング④（応答する）【講義・ワーク】

心理職としてクライアントの語りを深める応答の仕方を、ロールプレイを通して学ぶ。

13. 研究の中間報告会①【講義・ディスカッション】

研究報告を行い、臨床心理学的視点からディスカッションする。

14. 研究の中間報告会②【講義・ディスカッション】

研究報告を行い、臨床心理学的視点からディスカッションする。

15. 臨床心理学における研究【講義・ワーク】

心理臨床における研究の方法や意義をふまえ、特定課題の研究を深める。

16. 研究報告会【講義・ディスカッション】

研究報告を行い、臨床心理学的視点からディスカッションする。

17. ガイダンス【講義・ディスカッション】

前期をふり返り、後期の目的・進め方・スケジュールを確認する。

18. 事例検討/実習指導①【講義・ディスカッション】

事例を通して、心理職として必要な知識や態度を学ぶ。

19. 事例検討/実習指導②【講義・ディスカッション】

事例を通して、心理職として必要な知識や態度を学ぶ。

20. 実習報告/事例検討/実習指導①【講義・ディスカッション】

	実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 21. 実習報告/事例検討/実習指導②【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 22. 実習報告/事例検討/実習指導③【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 23. 実習報告/事例検討/実習指導④【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 24. 実習報告/事例検討/実習指導⑤【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 25. 実習報告/事例検討/実習指導⑥【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 26. 実習報告/事例検討/実習指導⑦【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 27. 実習報告/事例検討/実習指導⑧【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 28. 実習報告/事例検討/実習指導⑨【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 29. 実習報告/事例検討/実習指導⑩【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 30. 実習報告/事例検討/実習指導⑪【講義・ディスカッション】 実習体験や事例の検討を通して、臨床心理学的な見方や考え方を深める。 後期を通して学んだことを振り返る。 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは講義内で行う。 全ての回を全教員が担当する。
準備学習	(予習) 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しておくこと。 (復習) 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	作成資料 (30%)、グループディスカッションへの参加度 (40%)、振り返りシートなどの提出物 (30%)
備考	この科目は 2 単位です。 単位取得には 90 時間の参加が必要である。原則として、毎回参加すること。 欠席の場合は、理由書と理由を証明するものを提出すること。

科目名	心理実践実習Ⅳ	授業コード	21S10133
代表教員	島田 正亮	担当教員	中島 亨、村部 妙美、柳田 多美、脇谷 順子、中村 美奈子、萩原 豪人、石川 智、大西 真美、櫻井 未央、平子 雪乃、古川 綾子、渡邊 郁子、山下 竜一、栗原 万里子、大江 悠樹
授業概要	大学及び大学院でのこれまでの実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解を基盤とし、心理に関する支援を要する者等に対する支援に係る実習を行う。心理に関する支援の実践を通して、個別目標にあげた①から⑤について身につける。また実習指導者又は実習担当教員による指導を受けることにより、心理に関する支援の知識と技能の更なる修得を目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 ・心理職に期待される役割を理解し実践力を身につける ・心理職に期待される専門的技術を身につける ・心理職に期待される連携を理解し実践力を身につける ・社会人としての常識、マナーを身につける 《個別目標 (SB0s)》 ①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーションや心理学的支援、多職種連携の方法について理解し、身につける。(知識・技能)		

	②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズを把握し支援計画を作成できる（知識・技能） ③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチを理解し、身につける。（知識・技能） ④多職種連携及び地域連携について理解し、身につける。（知識・技能） ⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できる。（知識）
授業計画	1-30. [実習・質疑応答] 公認心理師が活躍する医療分野、教育分野、福祉分野を中心とした臨床現場での実習を行う。各現場での公認心理師の役割をふまえて、そこで求められる対人コミュニケーションや心理学的支援、多職種連携の方法を実践的に学ぶ。また、心理臨床実践にかかる記録やその管理方法を実践する。これらから、公認心理師として活躍できるスキルを身につける。なお、本実習は180時間以上の時間数を必要とする。 （フィードバックの方法）毎回の実習記録に疑問点や自身の課題を記載させ、実習担当教員がフィードバックを行う。ケースカンファレンス時には実習中の体験や課題を取り上げ、振り返りができる機会を設ける。巡回指導では学生からヒアリングを行い、課題を早期に発見して指導する。 全ての回を全教員が担当する。
準備学習	（予習） 1-30. 各回とも、実習で必要とされる知識に関連する基礎的な事項を学習しておくこと。また各回の実習目標について整理し、まとめておくこと。 （復習） 1-30. 実習記録をまとめ、疑問点や課題、自身の不足している点について、次回実習日までに補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習等）は120時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	実習指導者による評価（50%）、実習担当教員による評価（50%）
備考	この科目は4単位です。 ・単位取得には180時間の参加が必要である。原則として、毎回参加すること。 ・欠席の場合は、理由書と理由を証明するものを提出すること。 ・本実習に参加するためには、実習前試験に合格することが必須である。実習前試験に合格できなかった場合は、外部実習には参加できない。なお、再試験は行わない。 ・外部実習参加に際して、実習態度（ルール不遵守、整容の乱れ、意欲低下など）に問題があるとされた場合は、学生や関係各所からの事情聴取や調査を行い、実習指導教員などによる実習継続可否の審議を行う。実習継続不可と判断された学生は、それ以降の実習は実施できないものとする。

科目名	臨床心理学特別演習 I	授業コード	21S10141
代表教員	柳田 多美	担当教員	村部 妙美、脇谷 順子、新井田 素子、 中島亨、島田 正亮、柳田 多美、中村 美奈子、萩原 豪人、三浦 大志、
授業概要	公認心理師国家試験受験に向けた学習を行う。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (2) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (3) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (5) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 (6) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 《一般目標 (GIO)》心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SBOs)》①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	I. およそ2か月に1回行われる公認心理師国家試験模擬試験の成績および月1回行われる学習進度確認試験の成績を元に、①成績上位およそ2/3の者は自己学習した部分のレポート提出（任意）を行う。②成績上位でない者は試験で明らかになった弱点部分について個別に学習指導および個別の講義を行う。なお、成績上位のものであっても希望者は個別講義に参加できるものとする。ここで、個別の講義の日時については、シラバス上の授業時間ではなく、担当教員と相談の上決定する。
準備学習	（予習） 1-15. I. 成績上位でない者については、専門の教員と日時を相談の上、個別に講義を行う。 （復習） 1-15. I. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習等）は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	模擬試験結果および学習進度確認試験の結果から評価を行う。
備考	この科目は2単位です。 教科書：公認心理師完全合格テキスト 翔泳社 未刊行 教科書：心理教科書 公認心理師 完全合格問題集 翔泳社 未刊行

科目名	臨床心理学特別演習Ⅱ	授業コード	21S10152
代表教員	中島 亨	担当教員	村部 妙美、脇谷 順子、新井田 素子、 島田 正亮、柳田 多美、中村 美奈子、 萩原 豪人、三浦 大志、
授業概要	公認心理師国家試験受験に向けた学習を行う。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	I. およそ2か月に1回行われる公認心理師国家試験模擬試験の成績および月1回行われる学習進度確認試験の成績を元に、①成績上位およそ2/3の者は自己学習した部分のレポート提出（任意）を行う。②成績上位でない者は試験で明らかになった弱点部分について個別に学習指導および個別の講義を行う。なお、成績上位のものであっても希望者は個別講義に参加できるものとする。ここで、個別の講義の日時については、シラバス上の授業時間ではなく、担当教員と相談の上決定する。
準備学習	（予習） 1-15. I. 成績上位でない者については、専門の教員と日時を相談の上、個別に講義を行う。 （復習） 1-15. I. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習等）は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	模擬試験結果および学習進度確認試験の結果から評価を行う。
備考	この科目は2単位です。教科書：公認心理師完全合格テキスト 翔泳社 教科書：心理教科書 公認心理師 完全合格問題集 翔泳社

科目名	ゼミナール I	授業コード	21S10162A
代表教員	中島 亨	担当教員	
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ① 臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ② 自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③ 先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④ 課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナール I	授業コード	21S10162B
代表教員	村部 妙美	担当教員	
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。 心理療法・心理査定などの知識を深化させる。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。 またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心を持ち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答] 論文やレポートなどの書き方を確認する。 3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究を講読し，課題を特定する。 7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答] 特定課題を研究するための計画を立てる。 9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答] 研究課題に関する文献や資料を精査し，論旨の構成を検討する。 15. まとめ [講義・質疑応答] 研究計画を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をふまえ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	口頭試問 30%，プレゼンテーション 30%，研究計画書 40%
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナール I	授業コード	21S10162C
代表教員	脇谷 順子	担当教員	
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答] 論文やレポートなどの書き方を確認する。 3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。 7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答] 特定課題を研究するための計画を立てる。 9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答] 研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。 15. まとめ [講義・質疑応答] 研究計画を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	口頭試問 30%，プレゼンテーション 30%，研究計画書 40%
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナール I	授業コード	21S10162D
代表教員	新井田 素子	担当教員	
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心を持ち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答] 論文やレポートなどの書き方を確認する。 3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究を講読し，課題を特定する。 7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答] 特定課題を研究するための計画を立てる。 9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答] 研究課題に関する文献や資料を精査し，論旨の構成を検討する。 15. まとめ [講義・質疑応答] 研究計画を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	口頭試問 30%，プレゼンテーション 30%，研究計画書 40%
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナール I	授業コード	21S10162E
代表教員	中村 美奈子	担当教員	
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ① 臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ② 自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③ 先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④ 課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答] 論文やレポートなどの書き方を確認する。 3－6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。 7－8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答] 特定課題を研究するための計画を立てる。 9－14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答] 研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。 15. まとめ [講義・質疑応答] 研究計画を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をふまえ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	プレゼンテーション 30%，口頭試問 30%，研究計画書 40%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナール I	授業コード	21S10162F
代表教員	島田 正亮	担当教員	
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答] 論文やレポートなどの書き方を確認する。 3－6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。 7－8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答] 特定課題を研究するための計画を立てる。 9－14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答] 研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。 15. まとめ [講義・質疑応答] 研究計画を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をふまえ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	プレゼンテーション 30%，口頭試問 30%，研究計画書 40%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナール I	授業コード	21S10162G
代表教員	柳田 多美	担当教員	
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SBOs)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答] 論文やレポートなどの書き方を確認する。 3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。 7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答] 特定課題を研究するための計画を立てる。 9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答] 研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。 15. まとめ [講義・質疑応答] 研究計画を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をふまえ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	プレゼンテーションを含む参加度 30%, 口頭試問 30%, 研究計画書 40%
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	ゼミナール I	授業コード	21S10162H
代表教員	萩原 豪人	担当教員	
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心を持ち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ① 臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ② 自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③ 先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④ 課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答] 論文やレポートなどの書き方を確認する。 3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究を講読し，課題を特定する。 7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答] 特定課題を研究するための計画を立てる。 9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答] 研究課題に関する文献や資料を精査し，論旨の構成を検討する。 15. まとめ [講義・質疑応答] 研究計画を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	口頭試問 30%，プレゼンテーション 30%，研究計画書 40%
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナールⅡ	授業コード	21S10171A
代表教員	中島 亨	担当教員	櫻井 未央
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SBOs)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナールⅡ	授業コード	21S10171B
代表教員	村部 妙美	担当教員	石川智
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。研究報告会（中間報告を含む）に参加する。 特に心理査定を心理療法に繋げていく視点等を深化させる。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ① 臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ② 自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③ 先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④ 研究課題に対する見解を、適切な文章や図表などを用いて表現し、発表できる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2-10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11-15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナールⅡ	授業コード	21S10171C
代表教員	脇谷 順子	担当教員	大西 真美
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。研究報告会（中間報告を含む）に参加する。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SBOs)》 ① 臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ② 自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③ 先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④ 研究課題に対する見解を、適切な文章や図表などを用いて表現し、発表できる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2-10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11-15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナールⅡ	授業コード	21S10171D
代表教員	新井田 素子	担当教員	萩原 豪人、古川 綾子
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。研究報告会（中間報告を含む）に参加する		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④研究課題に対する見解を、適切な文章や図表などを用いて表現し、発表できる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2-10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11-15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナールⅡ	授業コード	21S10171E
代表教員	中村 美奈子	担当教員	平子 雪乃
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④研究課題に対する見解を、適切な文章や図表などを用いて表現し、発表できる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方や特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献、資料を精査し、特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ、論文の構成を検討し、特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し、資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%、プレゼンテーション 25%、口頭試問 50%
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書:「伝わる! ロジカル文章術」酒井浩二 (2021) ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナールⅡ	授業コード	21S10171F
代表教員	島田 正亮	担当教員	山下 竜一
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。 研究報告会（中間報告を含む）に参加する。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO) 》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s) 》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④研究課題に対する見解を、適切な文章や図表などを用いて表現し、発表できる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2-10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11-15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	ゼミナールⅡ	授業コード	21S10171G
代表教員	柳田 多美	担当教員	渡邊 郁子
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。研究報告会（中間報告を含む）に参加する。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。 《個別目標 (SBOs)》 ① 臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ② 自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③ 先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④ 研究課題に対する見解を、適切な文章や図表などを用いて表現し、発表できる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2-10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11-15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	特別演習	授業コード	21S10182A
代表教員	中島 亨	担当教員	櫻井 未央
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	特別演習	授業コード	21S10182B
代表教員	村部 妙美	担当教員	石川 智
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ① 臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ② 自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③ 先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④ 課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	特別演習	授業コード	21S10182C
代表教員	脇谷 順子	担当教員	大西 真美
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	特別演習	授業コード	21S10182D
代表教員	新井田 素子	担当教員	萩原 豪人、古川 綾子
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	特別演習	授業コード	21S10182E
代表教員	中村 美奈子	担当教員	平子 雪乃
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方や特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献、資料を精査し、特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ、論文の構成を検討し、特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し、資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%、プレゼンテーション 25%、口頭試問 50%。
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書:「伝わる! ロジカル文章術」酒井浩二 (2021) ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	特別演習	授業コード	21S10182F
代表教員	島田 正亮	担当教員	山下 竜一
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その課題の解決に向けた研究ができることを目指す。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SB0s)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2－10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11－15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーション 25%，口頭試問 50%
備考	この科目は 2 単位です。 参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

科目名	特別演習	授業コード	21S10182G
代表教員	柳田 多美	担当教員	渡邊 郁子
授業概要	臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。研究報告会（中間報告を含む）に参加する。		
学位授与方針の関連 学習目標	《学位授与方針との関連》 (1) 高い倫理観と社会貢献への態度 公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽および研究発表を継続できる。 (2) 臨床心理学領域の高度職業人としての知識 専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (3) 臨床心理学領域における高度専門職業人としての技術 公認心理師資格を有する専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導や教育の役割を担うことができる。 (4) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 患者の病態の理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たし、マネジメントのあり方を把握し、能力を発揮できる。 (5) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての課題解決のための広い視野と学際的識見 諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決にはチーム医療を行い、他の学問領域の視点で把握することが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (6) 研究遂行能力 臨床心理学領域の研究に関する諸概念の理解、データの収集・分析、考察ができる。またプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、考察内容について説得力を持って発表することができる。 《一般目標 (GIO)》 心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて主体的に活動できる。 《個別目標 (SBOs)》 ①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。 ②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。 ③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。 ④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。		

授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方，特定の課題についての研究の考え方を説明する。 2-10. 研究課題の考察と深化 [講義・質疑応答] 研究課題に関する先行研究や文献，資料を精査し，特定の課題の研究を進める。 11-15. 特定課題の完成 [講義・質疑応答] 論旨をまとめ，論文の構成を検討し，特定の課題の研究を完成させる。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。
準備学習	(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献や資料を精査し，資料にまとめておくこと。 (復習) 1-15. ゼミでの指導内容をまとめ、学習の不足している点については文献や資料に基づき補足学習すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。
評価方法	資料作成 25%，プレゼンテーションを含む参加度 25%，口頭試問 50%
備考	この科目は 2 単位です。 テキストや参考資料については適宜指示・配布を行う